

A 資源有効利用促進法に基づく製造事業者に処分を依頼する予定だ。

Q 処分業者の取引において、個々のデータおよび個人情報の履歴等の取り扱いはどうか。

A 端末本体には、児童生徒等の個人情報情報は保存されない仕組みだが、念のため、端末に残るデータも確実に消去して処分する。

議第9号
令和8年度
三條市一般会計補正予算

Q 令和7年11月13日の火災により焼損した清掃センターのリサイクル設備の本復旧および再発防止策を行うとのことだが、本予算ではなく、補正予算で上程された理由を伺う。

A リチウムイオン電池の混入は近年増加傾向で、これに起因した小規模な発火により施設の一時停止に至るケースが多発している。この状況を踏まえ、本復旧に加えて、再発防止のための設備改善を一体で進めるべきと考えた。この設備改善の検討に時間を要したため、当初予算には計上できなかったものである。予算規模については、各種設備の交換や新設を狭い現場において足場を設置しながら施工するということから、適正であると考えている。

Q 農業担い手確保育成事業では、どのような取り組みを支援するのか。

A 果樹棚整備や大型コンバイン導入を支援し、経営規模拡大や生産コスト低減による収益力向上を図るものである。また、耕作放棄地の発生抑制や雇用拡大など、地域農業の維持発展につながるものである。

Q 戸籍システム標準化に伴う債務負担行為補正の目的と影響は何か。

A 国の標準準拠システムへの移行に向け、システム構築と運用のために債務負担行為を設定するものである。業務効率化や法改正への迅速な対応、セキュリティ強化が期待され、市民サービスへの直接的な影響はないと認識している。

Q 一般質問
A ダイジェスト
6月定例会

岡本康佑議員の質問

総合計画と令和7年国勢調査等から読み解く三條市の現状と今後の市政運営について



三條市立大学

Q 三條市立大学と共同で研究開発に取り組む事業者に対しての支援とは何か。

A 中小、小規模事業者に対して、ものづくり人材の育成や研究開発のノウハウの蓄積のため、大学との共同開発に要する経費の補助を行っている。

三條市民の健康について

Q 食べるということ、生活習慣病を含む心身の健康、また医療費との関わりについて伺う。

A 生命維持に加え、子どもたちの健全やかな成長や人々が健康で幸福な生活を送るために欠くことができないもの。生活習慣病の発症や重症化予防につながり、医療費の抑制につながるものと捉えている。



三條定期市の新鮮な野菜と果物

Q 次期総合計画を自らの手で策定する考えも含めて、10年後、持続可能な三條市をどのように描いているか。市長の所見を伺う。

A 人口減少を前提としたまちづくりを進めていくのが、市長としての私に課せられた責任。しかし、人口減少は後ろ向きだけの話でもない。仮に人口が半分になったとしても、三條市民の一人ひとりのエネルギーが2倍、3倍になればパワーアップする。総合計画は、10年後、その先の将来も見据え、将来像を共有できる計画として策定したいと考えている。

Q 国勢調査の速報値において、隣市よりも人口減少率が2%高い理由をどのように考えているか。

A 一概には言えない。複数の要因が重なった結果である。人口減少には、就業や通学の利便性、住宅事情、生活環境などさまざまな要素が関係しており、それらが総合的に影響したものと考える。

学びの多様な学校について

Q 学びの多様な学校の設置に向け、調査研究を行うべきであると考えるが、見解を伺う。

A 学びの多様な学校の柔軟な教育課程の編成や設置要件等の研究を進める。先進校への視察等も行い、有効性を

Q 食育に関して自立した人間を育てることの重要性の理解と、取り組みの中で効果があったものを伺う。

A 栄養指導やフレイル予防の栄養講話、こっそり減塩作戦やスマートミール事業は、食生活の改善と適切な食塩摂取の取り組みに効果があった。

小林誠議員の質問

三條市の公共交通は、利用者負担に格差があり過ぎる

Q 今年のダイヤ改定で、路線バスで病院に行けないとの声がある。公共交通の改善が急務だ。三條市の公共交通の令和7年度の利用者数は、のーとさんじょうが3万596人、デマンド交通ひめさゆりが2万3684人、循環バスぐるっとさんが5万120人だ(図1)。1人当たりの運用経費と利用者負担と公費負担の割合(図2)は、のーとの経費2321円、そのうち利用者負担は約17%、公費負担は約83%。ひめさゆりは経費2322円のうち利用者負担約36%、公費負担約64%。ぐるっとさんは経費878円のうち利用者負担約14%、公費負担約86%と、利用者負担の格差が大きい。速やかな是正が必要であるがどうか。

を検討する。

西村邦明議員の質問

いい湯らていの改修について

Q はやぶさを残してはどうか。

A 駐車場としての整備を含め、**公募型プロポーザル方式**で提案してもらう予定である。

Q 簡易宿泊ができるようにしないのか。

A 法的規制を考慮し、現時点で実施する考えはない。

Q 2階の座敷を廃止するようだが、利用状況はどうか。

A 年間121件、利用者数は1496人。

三條市自慢の上水道水について

Q 三條市の上水道水は大変おいしいと言われている。いろいろなところで宣伝してはどうか。

A 水道水の水源が良質であることは、ホームページの水質検査計画の中で周知している。大崎浄水場、遅場浄水場で浄水し、企業団からの受水は山岳地帯を集水域とする大谷ダムを水源

A 公共交通は種別ごとに特性があり、運営の仕組みと利用料金も異なる。財政状況等を勘案し、随時検討したい。

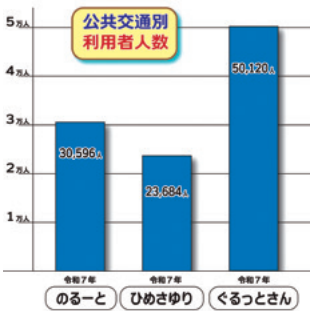


図1：公共交通別利用者数

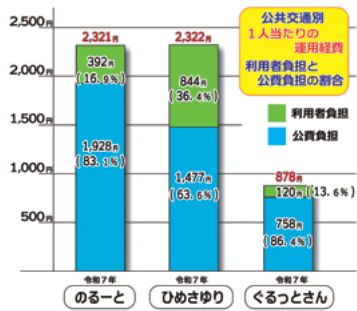


図2：公共交通別運用経費の割合

三條市立大学の運営について

Q 3月23日、地元紙1面に三條市立大学の定員増加と校舎増築について報道された。我々議員には、全く寝耳に水だ。事実関係と大学の運営費についての考え方を聞く。

A 大学の検討段階のものが報道された。大学として実施を決定したものでない。大学の運営に係る費用は、大学が負担することが基本原則だ。